

# 表紙の言葉

## 『黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱』

全面に葡萄と栗鼠の文様が施された豪華な料紙箱です。料紙箱とは、書を書く際に用いる紙や書簡などを入れる箱のことをいいます。

表面のモチーフに用いられている葡萄栗鼠文は、琉球で好まれて使われました。蔓が四方に延びてたわわに実がなる葡萄と、多産である鼠に似ている栗鼠は、子孫繁栄を意味する縁起の良い文様とされていたからです。

表面は黒漆塗りに、やや厚手の貝で主に葡萄の実と栗鼠の文様をあらわして、その輪郭を金で縁取っています。栗鼠の毛並みは黒い線で表し、さらに細かな毛を描金で加えています。また、葡萄の葉と蔓は箔絵であらわし、葉脈は黒漆で描いています。葡萄の実の形は、不揃いでしっかりとした円形ではなく、少し大きめに金で縁取りをしています。しかも、ところどころに貝ではなく箔絵で表した葡萄の実も交えて表情に変化をもたせています。文様と文様の間には、細かくした貝片を蒔き、隙間を埋めています。作品タイトルには「黒漆」とありますが、黒い部分が見えないほど金箔と貝で表面が覆われているきらびやかな作品です。

作品の内側は朱漆塗りで、蓋裏と懸子には箔絵で

花と蝶を描いています。琉球漆器には、このように蓋や底の裏にも文様が描かれている場合が時折あります。その場合、表面と雰囲気異なる文様が描かれることが多く、この作品も表面の派手な印象とはうらはらに、清楚であっさりとした雰囲気の絵が描かれています。

この作品に非常に類似した品が(財)首里城公園にも所蔵されていますが、それは料紙箱と硯箱のセットになっています。恐らく日本向けの贈り物として、同時代にいくつもの類品が作られたのでしょう。

この作品は、常設展示第5室「琉球漆器名品室」にて展示しています。ゴールデンウィークに美術館めぐりを計画し、じっくり時間をかけて名品を堪能してはいかがでしょうか。(伊禮)



懸子



蓋裏

### 美術館スケジュール 2008年4月～7月

#### ■常設展

琉球王朝文化の華—漆芸—

- 平成20年度前期「うるしのかたちを楽しむ」
  - ・4月12日(土)～10月上旬

#### ■企画展

##### ■美術館自主企画

- ・4/12(土)～5/11(日) 東南アジアの布展
- ・5/27(火)～6/15(日) 現代アジア漆絵展(仮称)

##### ■その他

- ・3/23(日)～4/6(日) 第60回 沖展 工芸部門
- ・4/12(土)～4/20(日) 「踊りに魅せられて」写真展
- ・5/13(火)～5/18(日) 卒寿：書と花の接写展
- ・5/20(火)～5/25(日) 第42回 書遊会沖縄書道会展
- ・6/17(火)～6/29(日) 人間国宝 秋山信子人形展
- ・7/5(土)～8/17(水) 四大浮世絵師展

#### 開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
\*金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)

#### 休館日

毎週月曜日

\*展示替えのための臨時休館4/7(月)～4/11(金)

### 館長よりご挨拶



3年前に美術館長は非常勤特別職となり、私の任用も今年3月末日で任期終了の予定でしたが、この度、引き続き再任することになりました。再任にあたり多くの関係者の方々に、これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、今後もより一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

3年間を振り返ってみますと、美術館の運営方針として指定管理者制度の件がありました。指定管理者制度への移行は、重要なコレクションを持つ専門美術館としては急ぐべきではないと認識しており、これからの地方美術館のあり方や専門美術館の問題点など、多くの課題を抱えながらも、しばらくの間は指定管理者制度を導入せず、市の直営にすることを決定しました。また、数年前から美術館と歴史民俗資料館を合体させた複合施設にすべきであるとの意見もありましたが、当美術館の施設理念に基づき、日本で初の漆芸専門美術館としてより一層の専門性を強調活用できる美術館を目指すことにしました。この2点が私の任期中に成し得た大きな仕事であったと思っています。

美術館の活用については、市民が気軽に出入りできる‘グア履き美術館’を目指して、当館の開放に努めました。美術館フェスタや親子で参加できるワークショップなどを数多く開催しています。また、これまで美術館は過去の秀作を鑑賞する場でありましたが、これからは芸術家を育てるのも美術館の重要な役割であります。今年は第2回現代漆芸作家展の開催を予定しており、また将来、市内の美術家・彫刻家・デザイナー・工芸家が参加した市内作家展も企画して、現代漆芸作家展と隔年で開催できたらと考えています。これからの美術館は、行政・市民・企業が一体となった、生きた文化施設となることを願っています。

浦添市美術館館長 前田孝允

編集・発行 浦添市美術館

Tel: 098-879-3219

Fax: 098-878-1221

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9-2

http://www.city.urasoe.lg.jp/art/